

研究実施のお知らせ

2025 年 11 月 14 日 ver.4.0

研究課題名

髄液を用いた神経疾患に関連した蛋白・脂質の分析

研究の対象となる方

脳神経内科診療で 2020.7.31 までに髄液採取を行った検体で臨床上の必要性から保存されている髄液検体で、多発性硬化症、視神経脊髄炎、アルツハイマー病、脳梗塞、パーキンソン病、中枢神経悪性リンパ腫、脳炎の方や、疾患疑いで検査を行い後に正常と診断された方

研究の目的・意義

神経内科診療で行った髄液検査にて臨床上の必要性から保存されている髄液検体について、髄液中の疾患関連蛋白・脂質を同定または測定し、疾患との関連性を検討することを目的とします。

多くの神経疾患（特に炎症性疾患、変性疾患など）では診断困難なことが多く、髄液を用いて炎症活動性のモニタリングや神経疾患関連蛋白・脂質濃度測定が行われ、病勢判定や確定診断の補助として使用されています。代表的なものとして、炎症性疾患におけるサイトカインやプロテアーゼ活性、神経変性疾患におけるアミロイド蛋白、タウ蛋白などが挙げられ、また同定されていない蛋白・脂質も多いと思われます。これらの蛋白測定は保険適応がないため診療科における研究レベルで行う必要がありますが、治療には有用な検査であり、新たな疾患マーカーとなるような蛋白・脂質が見つければさらに有用です。

神経疾患における髄液バイオマーカーの検索とモニタリングは、多数の研究者により旺盛に研究が進められており、臨床的意義が確立されたものも多くみられます。

今回我々は、髄液を用いて、疾患毎の蛋白・脂質発現の相違を検討することにしました。これにより疾患の原因を探索できれば、診断および将来患者に有益な治療に結びつく可能性があります。

今回は、多発性硬化症、視神経脊髄炎、アルツハイマー病、脳梗塞、パーキンソン病、中枢神経悪性リンパ腫、脳炎、疾患疑い例で検査後に正常であった方を対象とします。

研究の方法

神経内科診療で 2015.1.1～2020.7.31 の期間に髄液採取を行った検体で臨床上の必

要性から保存されている髄液検体について、髄液中の疾患関連蛋白・脂質を同定または測定し、疾患との関連性を検討します。既に髄液は採取されているため、新たに行って頂くことはありません。

場合によっては、臨床情報と測定データを分析することより、疾患、疾患の病勢との関連性を検討することも考えられます。

本研究で得られた各種データおよび臨床データは、島根大学医学部内科学第三におけるサーバーに保存されます。このサーバー内のデータベースは外部からアクセスできず、パスワードによって使用可能な研究者を制限されています。この研究に参加された場合、診療情報や検体など、この研究に関するデータ等は、個人を特定できないように記号化した番号により管理します。あなたの個人情報を個人が特定できる形で使用することはありません。

この研究のデータおよび関連する資料は、研究責任者が研究結果の最終報告を行ってから 10 年間保管し、その後個人の特定ができない状態で廃棄（消去）します。

この研究のために提供された検体は、島根大学医学部内科学第三の保管庫で管理し、必要な測定が終了した後に個人の特定ができない状態で廃棄します。

研究の期間

2021 年 3 月 29 日～2030 年 3 月 31 日

研究組織

この研究は島根大学医学部内科学第三が行います。

試料（検体）・情報の利用停止

ご自身の試料（検体）・情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2026 年 3 月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいこととお知りになりたい方、ご自身の試料（検体）・情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院内科学第三 教授 ながい 長井 あつし 篤

連絡先：島根大学医学部内科学第三

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

TEL: 0853-20-2198FAX 0853-20-2194